CIUS) を埼玉県の平野部で採集した。埼玉県初記録と思われるので報告しておく。

4♂♂2♀♀，埼玉県入間市仏子，12. Ⅷ. 1978

1♂1♀，埼玉県入間市仏子，13. Ⅷ. 1978

8月13日には，他に死個体1頭と蛹を1蛹採集した。

これらの個体は，道路脇に切り倒されていたアカマツ（根元部の直径40cm位のもの）より採集したもので，樹皮の辺材部に近い部分は多数のキクイムシ類に食われており，ケブカヒラタは樹皮の中央部を食い蛹室も中央部に作られていた。

この材の切口からは松ヤニが出ていなかったため，すでに立枯れとなった状態で切り倒されたものと想像された。

（〒359 所沢市狭山ヶ丘1-3002-11）

兵庫県でケブカマルクビカミキリを採集

三木　進



ケブカマルクビカミキリ *Atimia okayamensis* HAYASHI は，これまで岡山，長野，広島県下で採集されていたが，筆者をはじめ兵庫昆虫同好会々員は，兵庫県下にて本種を採集したので報告しておく。

2♂♂1♀，兵庫県三木市別所町朝日ヶ丘，1. Ⅳ. 1979，三木進採集

1♂，兵庫県三木市別所町興治，3. Ⅳ. 1979，小倉滋採集

1♂，兵庫県三木市別所町朝日ヶ丘，15. Ⅳ. 1979，遠山雅夫採集

兵庫県南部にはネズミサシの生えた100～200mの丘陵地帯が広がり，住宅開発が進んでいる。ケブカマルクビカミキリが岡山・広島県下でネズミサシのビーティングで採れていることから，ネズミサシの老衰木の多い三木市郊外を調査し上記個体を得た。本種は幹がまっすぐ上に伸びた健常木からは見出されず，いずれも道路際などの，地を這うようなひねた木の直径2～3cm ほどの枝部分から落ちた。1本の木から複数個体は得られず，4月初旬から中～下旬にかけて，夜間・雨中なども含めて集中的に採集を試みたが5頭しか発見できなかった。また，ツツジ類が開花していたが，花上には見られなかった。



三木市別所町朝日ヶ丘の丘陵地



最初の1♂が落ちた横枝

参考文献

1. 川田一之（1975）：ケブカマルクビカミキリを長野県戸台で採集，ELYTRA，**2**(2).
2. 黒田祐一（1974）：ケブカマルクビカミキリ，昆虫と自然，**9**(8).
3. 山本漢次（1978）：広島県でケブカマルクビカミキリを採集，ELYTRA，**6**(1).

（〒655 神戸市垂水区多聞台2-13-8-303）

香川県でマルクビケマダラカミキリを採集

山地　治

マルクビケマダラカミキリ *Trichoferus campestris*



(FALDERMANN) は従来本州および九州より採集されていたが，四国における記録はなかったようである。

筆者は香川県琴平山で本種を採集したので，ここに報告しておく。

1 ex., 香川県琴平山, 4. Ⅷ. 1978

夜間，石燈籠の明りに来ていた個体である。

(〒700 岡山市幸町9-9)

イガブチヒゲハナカミキリを福島県檜枝岐で採集

窪田　勝信

福島県南会津地方のカミキリは，衣笠・藤田 (1977, 1978) により231種がまとめられているが，筆者はこれに含まれていないイガブチヒゲハナカミキリ *Corymbia igai* (TAMANUKI) を採集しているので報告しておく。

2♂♂, 福島県南会津郡檜枝岐, 7. Ⅷ. 1978

午後3時頃ノリウツギの花に飛来したもので，他にオオハナ，ブチヒゲハナ，フタコブルリハナなどのハナカミキリが見られた。

(〒235 横浜市磯子区洋光台2-12-25)

ヤマトヒメハナカミキリ九州亜種について

小笠原　隆

ヤマトヒメハナカミキリ *Pidonia yamato higeshiro* YAMAWAKI は，山脇好之 (1977)*) によって記載された九州特産の亜種で，原亜種と比べ雄ではあまり差異がないものの，雌では上翅の黒色部が発達し中央部の黒い円形の紋を囲む黄褐色の部分が前後に二分され，さらに基部に近い紋が会合線に沿ってL字型(左翅ではその逆)になること，触角の第9節3/5から第11節のほぼ1/2までが灰白色であることで区別されるという。

ところが，筆者が四国で採集した本種の雌の個体の中には上記の条件をほぼ満たす個体が2頭あり，しかも本州産と特に区別できない個体も同じ場所で採集している。この2頭は，高知県土佐郡工石山(くいしやま)にて1973年6月10日にコガクウツギの花上から採集したもので，1頭は触角第9節1/2から第11節1/3までが白色微毛で被われ，残りの1頭も第10節2/3から第11節1/2までが白く，しかも第9節の先端部1/5程が白くなっている。同じ産地の他の雌の個体はいずれも触角が一様に黒色であり，同じ産地においてこのように2つの型が得られている点や，特に *Pidonia* 属においては上翅の紋の変化がきわめて大きく，同定の基準としては使いにくいという点などから考えて，九州のヤマトヒメハナは別亜種として区別するよりも，型程度としてとり扱う方が適当と思われる。

*) 山脇好之 (1977): ヤマトヒメハナカミキリについて，昆虫学評論，**30**(1/2): 61-62.

(〒142 品川区旗の台5-11-26, みのる荘10号室)

スネケブカヒロコバネカミキリ愛知県に産す

松野　更一



スネケブカヒロコバネカミキリ *Merionoeda hirsuta* (MITONO et NISHIMURA) は本州，四国，九州，対馬に分布し，本州では中国地方と兵庫，和歌山，福井の各県で記録されている。筆者は愛知県下で行なわれた三河昆虫研究会の採集調査会において，本種を採集したのでここに報告する。

1♂, 愛知県北設楽郡富山村, 6. Ⅷ. 1978

採集地は天竜川支流の漆島川西岸急斜面の自然林で，リョウブの花に飛来した個体を採集した。本種の他には，ヨツスジハナ，コウヤホソハナ，クスベニなどのカミキリが多数訪花しており，同年の7月23日には同じ花上でアオカミキリ2頭とヒメヨツスジハナカミキリ1頭も得ている。

末筆ながら，発表を勧められた大平仁夫博士に心から感謝申し上げる。

(〒440 豊橋市花田町斉藤74)

埼玉県でフタスジゴマフカミキリを採集

平井　　勇

フタスジゴマフカミキリ *Mesosa cribrata* BATES は局所的な採集記録しかない種で，本州では長野県および福島県下の2ヶ所でのみ得られているようである。

筆者は埼玉県秩父郡大滝村三峰山で拾ったオニグルミ